

1 派遣期日 令和4年10月18日（火） ～ 10月19日（水）

2 派遣先 学校名 埼玉大学教育学部附属小学校
所在地 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-9-44
<http://www.fusho.saitama-u.ac.jp>

3 研究内容（埼玉大学教育学部附属小学校研究概要より抜粋）

（1）研究テーマ 「学びをつくる」～子供たちが自覚と自己決定をくりかえすために～

（2）研究概要より

本校は、令和元年度まで思考力、判断力、表現力等に絞って研究を行ってきた。その際、思考力、判断力、表現力等を用いて問題を解決できるだけでなく、その過程で自ら進んで問題を発見したり、試行錯誤しながら粘り強く取り組んだりするなどの主体性や、効率よく解決したり、他者と関わりながら考えを深めたりするなどのよりよく問題を解決することについて課題が見られた。また、主体性やよりよく解決することは学習指導で求める「学びに向かう力、人間性等」に当たるものとして、これからの教育課程に沿ったものであると考えた。児童がよりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるためには、特に「学びに向かう力、人間性等」に働きかけることが重要だと捉え、令和2年度から児童の「学びに向かう力、人間性等」に研究の主体を置き、「学びをつくる」を研究主題に設定し、研究を進めることとした。本研究を進める中で、「学びをつくる」ためには、どの教科においても、児童が「自覚」と「自己決定」をくり返すことができるように教師が児童の側（がわ）に立って学習における働きかけを行うことが大切であると分かった。

（3）目指す児童像・研究の目的

学びをつくる児童の姿を、以下のように捉え、研究を進めてきた。

進んで問題を見だし、よりよい解決に向けてねばり強くやり抜く子

児童は、学習活動の中で問題と出会い、思考を巡らせて解決に向けて進んでいく。この問題解決の過程において、児童が今の自分を捉え、今までの自分やこれからの自分と比べたり、他者と比べたりして「自覚」しながら学習を進めるようにしていく。また、目の前の問題を自分事として捉え、自分の思いをもって選択、決断して「自己決定」しながら学習を進めるようにしていく。そして、学習を進める中で、児童が「自覚」と「自己決定」を繰り返しながら、見いだした問題をよりよく解決したり、粘り強く取り組んだりするようになり、解決したことを基に、新たな問題を見いだすようになると考える。まさにこの姿は、全教科・健康教育等に共通の目的すべき児童の姿であり、「学びをつくる」児童の姿だと考えている。

（4）研究の実際

① 低学年における「学びをつくる」姿

低学年の真つすぐな学びに向かう姿勢を教師が生かし、個別に興味関心を持ったことを課題とし、課題を解決できるように学びに向かい、学び方の基礎を身に付けていこうとする姿。

a、自覚と自己決定を促すための工夫

・低学年の発達の段階を生かした指導の工夫

- ・子供の心（欲求）を理解し、学習意欲につなげるための発問・言葉がけの工夫
- ・子供の思考に沿った自然な枠の設定

② 中学年における「学びをつくる」姿

「やりたい」「やれそう」が継続している姿。

a、自覚と自己決定を促すための工夫

- ・一時的な意欲ではなく、意欲を継続できるようにするために、「やれそうだ」という気持ちが高まることができるようにし、「やってみよう」という自発的な行動につながる働きかけをする。

③ 高学年における「学びをつくる」姿

自分事に捉え、学びの価値を見いだす姿。

a、自覚と自己決定を促すための工夫

- ・高学年の発達の段階を生かした指導の工夫
- ・各場面に応じた主な教師の働きかけ

(5) 各教科の研究主題

- ①国語科「未来を拓く言語能力を育成する学びのプロセスの構築」
- ②社会科「社会がわかり、社会に関わる児童を育てる指導の工夫」
- ③算数科「問題を見いだす児童を育てる指導」
- ④理科 「自然事象を通して、科学を語る児童を育てる指導の工夫」
- ⑤生活科「学びを自らの生活に生かす生活科の学習指導」
- ⑥音楽科「自分の見方で音楽に向き合う児童の育成」
- ⑦図画工作科「自分の思いを豊かにし、表現しきる児童を育てる」
- ⑧家庭科「よりよい生活に向けて学びを実践し、未来に生きる力を育む指導の工夫」
- ⑨体育科「小学校体育授業において、全ての子どもが学習を自分で進め、運動への有能さを高められる指導の工夫」
- ⑩健康教育「生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培う指導の工夫」

4 感想

- (1) 国語の授業（物語）では、人物の相互関係や心情について描写を基に捉えることの大切さや一人で学ぶことのよさや、共有することのよさについて知ること、学習への意欲を高めていた。この活動を単元の始めに時間をかけて行い、一人一人の学習に対する目的意識と見通しを明確にしていくことが必要だと感じた。
- (2) 音楽の授業（地域につたわる音楽でつながろう）では、音色や、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫しながら演奏しようとする児童が多く見られた。これは、日頃から音楽を形づくっている要素について意識させ、学習し続けているからこそできるもので、積み重ねの大切さを感じた。
- (3) 児童に「気が付かせる」ための手立てが多く、まさに、「自覚」と「自己決定」の連続でできている授業が多かった。そのため、児童が、授業を楽しみ、粘り強く学習に取り組もうとする姿がたくさん見られた。児童の側（がわ）に立つこと、そして、学習における働きかけを行うことが大切だと実感した。